

## ① 世界の都市における都市戦略

都市名	概要
1. パリ(フランス)	歴史、文化をキーワードとした大規模プロジェクトによる都市再生 民間を活用した貸自転車による回遊性の向上と環境への取組み
2. ストラスブール(フランス)	公共空間を車から人へ戻す取組み
3. フライブルグ(ドイツ)	CO2削減にむけた様々な取組み
4. カールスルーエ(ドイツ)	トラムによるまちなか回遊性の向上
5. ベルリン(ドイツ)	負の遺産の継承による平和啓発
6. テンプリン(ドイツ)	観光資源(温泉、自然景観)を活かしたまちづくり
7. ロンドン(イギリス)	産業構造転換にともなう歴史を継承したまちづくり
8. ジェノバ(イタリア)	港や歴史的都心部の再生による観光港の創出
9. シドニー(オーストラリア)	様々な取組みによる「みなとの活性化」
10. バルセロナ(スペイン)	脱クリアランス型の土地利用転換(約20年)による都市再生
11. ミネアポリス(アメリカ)	都心部の渋滞緩和に向けた取組み
12. 上海(中国)	金融、観光等様々な機能導入による都市再生(約20年) 倉庫街、路地型商業空間の再生
13. 北京(中国)	工場のリノベーションによる商業振興
14. 大連(中国)	地理的立地を活かした国際的ハブ港にむけた取組み
15. ソウル(韓国)	清溪川復元(2年3ヶ月)による環境都市への再生と産業構造の転換
16. 釜山(韓国)	国際人が再び訪れたい海洋・文化観光都市へむけた取組み

### グランプロジェクト：拠点的大規模プロジェクトによるパリ再生

#### 1) 狙い

○欧州統合に向けて世界文化都市としてパリを再生し、欧州の中心的位置を再び獲得する狙いを持った国家戦略的プロジェクト

- ・1981年にミッテラン大統領が先行の3つのプロジェクトを含む9つの大規模プロジェクトによる都市再生計画を構想。シラク市長との協議の上、革命記念200年祭の国家的事業として世界にプロジェクトを披露することを決定。
- ・欧州統合の動きに伴う国間、都市間競争というEUの中での位置確保を懸けた国家的な課題に対応するため、世界都市パリに焦点を当てる。
- ・世界的な話題を呼ぶ拠点的な大規模再開発として、短期間に効率よく都市再生を図る。同時に、通常の方法では困難なパリ改造へのきっかけをつくる。

#### 2) コンセプト

- 歴史性（プロジェクトを通じて、過去～未来を人々に問いかけることが最大の目的）
- 文化性（様々な文化との対話、交流の機会をつくり、世界に情報発信）
- 都市環境の指標づくり（劣悪な都市環境から新しく豊かな環境への再生に対するオリエンテーションとする）
- 若きフランスの象徴づくり（21世紀の都市社会の象徴としてのパリ再生プロジェクト）

#### 3) 特色

- パリ市内の適所に配置された多様な9つのプロジェクト。
- 革命200年記念（1989年）及び欧州統合の1992年を期限とする時限的プロジェクト。
- 各プロジェクトのプロセスをPRするイベントを行い、世界に情報発信して関心を呼ぶ。
- 世界からの参加により、プロジェクトに話題性を持たせる。
- 質の高いプロジェクトとし、その都市空間と活動が将来にわたり世界に情報発信する。<sup>1</sup>

# 1-2 パリ（フランス）

## 【歴史】・【文化】

### エトワール凱旋門

1806年、オステルリッチの戦いで勝利を収めたナポレオン・ボナパルトの命によって建設が始まり、ルイ・フィリップの王政時代の1836年に完成。



### 新凱旋門（グランドルシュ）

カルーゼル凱旋門とエトワール凱旋門の2つの門が形成する都市軸（パリの歴史軸）の延長線上にある建築物であるため、日本語では「パリの第3の凱旋門」、または、「新凱旋門」とも呼ばれる。グラン・プロジェクトのひとつ

超高層オフィスビル：最上階35階は展望台



# 1-3 パリ（フランス）

## 【景観】・【環境】

### 市内全域でのレンタル自転車システム「ヴェリブ」（2007年7月導入）

「velib」の仕組みについて レンタサイクル「velib」（仏語で自転車「velo」と自由「libre」を合成した造語）

市内のほぼ300mに1ヶ所の割合で、パーキングステーションを設置している。パーキングステーションは、もともと車道にあった自動車用の駐車スペースから転用し、10~30台近くの自転車を停める固定装置と1台の自転車貸出装置（borne）から成り立っている。

このパーキングステーションの設置位置及びそこでの固定装置の台数については、市の都市計画部局と共同で、市域を200mメッシュで区切り、各々のエリアの人口（自転車の主利用層である15~65歳の人口）、エリア内居住者の移動動向等々を調べ、利用予測をたてた上で決定した。

2007年7月にパーキングステーション750ヶ所、自転車10,000台でヴェリブをスタートさせた。ヴェリブの利用方法は非常に簡単で、最寄りのステーションから自転車を借り出し、利用した後は近くのステーションに乗り捨てるというものである。

#### 「velib」の事業スキームについて

このヴェリブ導入にあたり、パリ市は持ち出しなしで、この事業を行っている。パリ市は屋外広告物への規制が非常に厳しく、私有地内でも勝手に広告物（看板等）を設置することができない。屋外広告物は、公共施設上（道路等）にパリ市が許可をした広告塔やバスシェルターの壁面等にのみ設置できるとされており、その広告塔等が非常に重要な広告媒体となっている。

パリ市は、その広告塔等の設置を可能とする権利を入札にかける際に、あわせてヴェリブの実施を条件とした。



Borneと自転車



屋外広告物のモニュメント等

# 1-4 パリ（フランス）～その他～

都市周縁部におけるネガティブな土地を文化発信、集客交流の核へ～ラ・ヴィレット公園（1998年完成）

- ・パリ19区の外側の端。パリ有数の屠殺場跡地。約55ha。
- ・注目度の高い国際コンペで選ばれたベルナール・チュミ設計。
- ・公園内には、科学博物館、音楽ホール、映画館、楽器博物館等の施設あり。歴史的な運河も残された。
- ・「近未来都市公園」として広く知られるだけでなく、音楽芸術の発信地として国内外で名高く、大きな集客力を有する。（夏には野外コンサートあり）
- ・市民の憩いの場として愛される場でもある。



写真(C) <http://www.villette.com/fr>

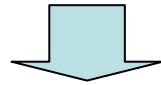
## コンベンション都市パリ

- ・年間1,627件以上のイベントが行われ、そのうち283件は会議、385件が国際見本市で、1,070万人が来訪。
- ・フランス観光開発機構オフィシャルサイト内に、MICEのサイトがある（日本語もある）
- ・「インセンティブの企画」「サロンや見本市に参加」「セミナーや会議を開催」という目的別に情報を提供している。
- ・パリ市観光局公式サイトでも「ビジネス観光」の扱いが大きい。
- ・「フレンチ・コンベンション・ビューロー」：フランス観光開発機構のもとに設置されたフランスの観光をプロモーションする機関。フランスの観光産業を代表する134の公的また私的機関が集まってできた団体で、国外の団体に向け、フランスでのセミナーやイベント開催を誘致。
- ・フランス観光開発機構公式サイトにおいて、「日本で楽しむフランス」（フランスに関する展覧会や文化・グルメイベント）の情報発信にも力を入れている。

## 2 ストラスブール（フランス）【環境】

### トランジットモール導入の背景

- 市長がVAL（ミニ地下鉄・工事費高）の導入提案
- 反対運動が起り、市長選挙で落選
- 新市長が、公共空間を車から人へ取り戻す試み
- トラム（路面電車）の復活



- 歩行者専用道路を2倍の14万km<sup>2</sup>へ拡大
- 12kmのトラムの復活
- 市内駐車場800台分を撤去し、都心の外側に400台確保
- 都心部への車の流入路を制限  
（ある程度進入すると転回し、元に戻るシステムの導入）  
～トラムによるまちづくり成功の条件～

- ・財源の確保（料金収入、交通税、一般財源）
- ・公共交通は、行政が保証する公共サービス
- ・車より速い交通手段（専用道路、歩行者・公共交通優先）
- ・交通手段の有機的連携（R&BR、P&R）
- ・公共交通運営の一元化（情報を集中させる）



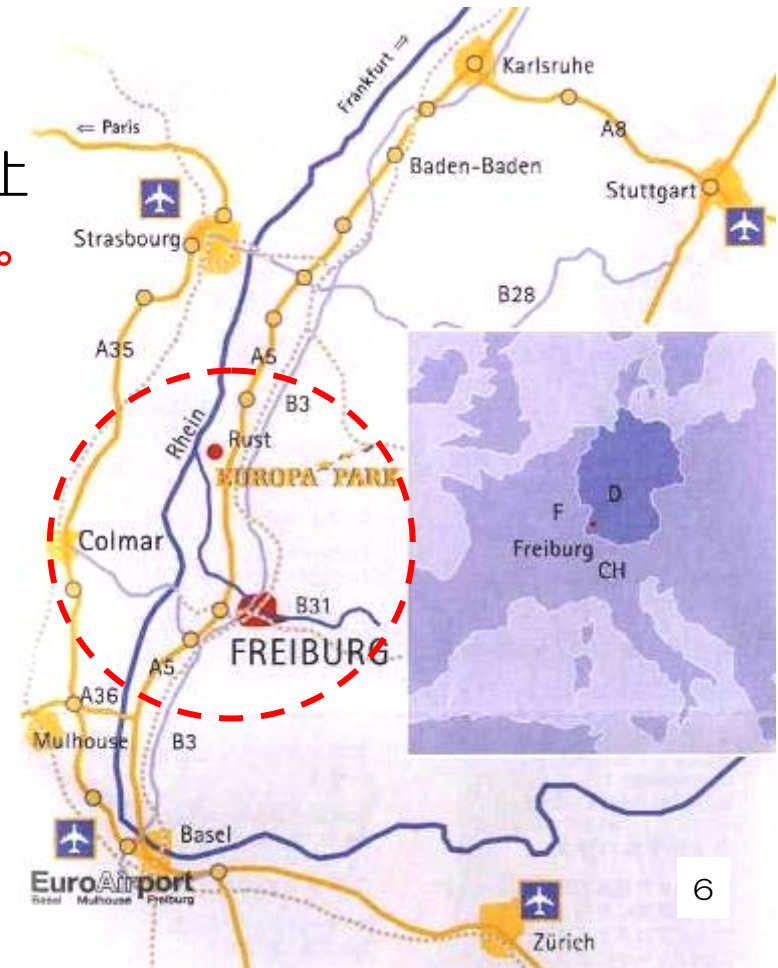
## 3-1 フライブルグ（ドイツ） 【環境】

### CO2削減に対応したまちづくり事例

#### 地区概要

- ・人口：22万人
- ・第三次産業従事者が85%
- ・第二次大戦時に中心市街地の90%を焼失
- ・酸性雨の被害が大きく、環境問題に早くから取り組む

1970年代に30km離れた箇所での原発建設を阻止  
⇒環境問題（代替エネルギー）への関心が高まった。



## 3-2 フライブルグ (ドイツ)

## 【環境】

### CO2削減に対応したまちづくり事例

#### ①環境政策

##### ・エネルギー基準の作成

基準をクリアしないと、新築住宅の建築、中古住宅の売買等が不可。さらに数年後には自ら居住も不可

1992年 65kwh/m<sup>2</sup>・年以下  
(当時の法で定める基準より▲30%)

2005年 50kwh/m<sup>2</sup>・年以下

##### ・太陽光発電の普及

太陽光パネル設置への補助

1kwhあたり 300€ (3.6万円)

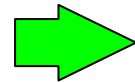
参考：東京都

1kwhあたり 10万円 (2009年度より)

・「再生可能エネルギー法」による売電価格の設定

・太陽光発電の普及

ex)ソーラー団地,サッカー場,メッセ会場,高速道路上等



特段の補助ではない



## 3-3 フライブルグ（ドイツ） 【環境】

### CO2削減に対応したまちづくり事例

#### ②エネルギー・コンサルティング

レギオ・フライブルグ・エネルギー・エージェンシー(ERF)

～ERFの実施業務～

- ・ 住民、（集合）住宅、施設での省エネコンサルティング
- ・ 教会、面的開発（住宅団地）への熱供給等のコンサルティング
- ・ 病院、学校、役所での省エネ回収にあたってのPFI活用の仲介
- ・ 省エネに関する視察や国際会議の対応補助

EX1)一般住宅の新築・改築に伴うコンサルティング  
149㎡の住宅に対して、7万€（840万円）の  
省エネ回収のコンサルティング →CO2排出量85%削減

EX2)サッカー・スタジアム  
太陽光発電を自宅に設置できない人（集合住宅居住者等）が出資して、スタジアムの屋根にパネルを設置→売電収入を配当還元、サッカーチケットを配布等の利点

#### CO2削減の実績

1992年～2007年

フライブルグ市全体 ▲7.3%

住宅起因のもの ▲13%

ドイツ国内では±0%

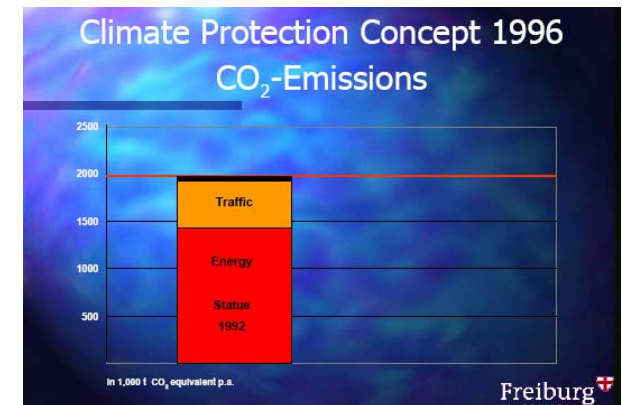
日本（1990～2006年 ±6.2%）

## 3-4 フライブルグ（ドイツ） 【環境】

### CO2削減に対応したまちづくり事例

#### ③交通政策

1. 中心市街地を、一部を除き歩行者専用
2. 自転車道の整備  
⇒ 1980年代後半から自転車道400km整備、中央駅そばにサイクルステーションを整備
3. 中央駅に機能を集約⇒フリッツパキングの整備（市中心部の料金高）
4. ・ 住宅地での30km/hの速度制限⇒住宅地を抜け道として利用しにくくした。
  - ・ 4車線道路の計画的整備⇒自動車交通をこちらに集中
5. 公共交通機関（LRT,バス）の整備  
⇒ ・ LRT総延長35km、駅勢圏で人口80%が
  - ・ 運転間隔をLRTは7分半、バスは15分とした。
  - ・ 環境定期（1984）、地球環境定期（1991）の導入（44.5€/月(5,300円)で乗り放題、無記名式 →現在7,000万人/年 単年黒字に



■ CO2発生のうち、2割が交通起因。⇒公共交通機関にシフトし、これを1/3に



## 4 カールスルーエ（ドイツ） 【環境】

### トラムの利用

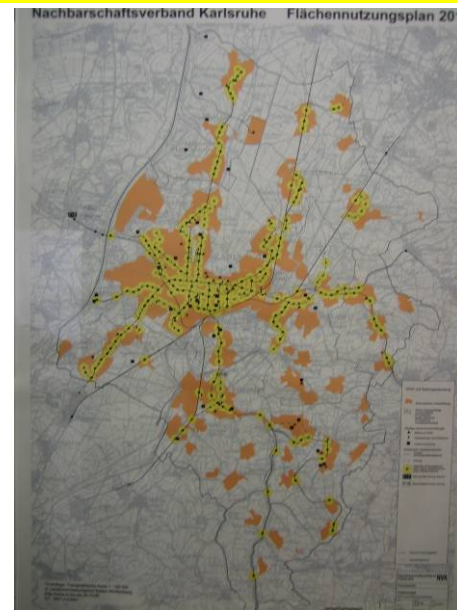
400mの円に収まるよう停留所を配置。

1本/20~30分 終電25:00

現在では16,000人/日の利用者になった。

総計600kmの乗り入れを実施し、郊外への買い物、仕事も便利。

真 中央広場（トランジットモール）】



【写真 400mの円】

【写真 乳母車（自転車・車椅子も可）】



【写真 市のパーク&ライド（無料）】

## 5 ベルリン（ドイツ） 【平和】

1871年、プロイセンによるドイツ帝国の首都となり、栄華を誇ったが、敗戦後の1961年8月13日に一夜にして『壁』が築かれ、首都もボンに移転し、東西に分割された。1989年11月9日にベルリンの壁が崩壊し、1999年に再び首都の座に返り咲いた。

ベルリンの都市の真ん中は「ベルリンの壁」で分断され、東ドイツから西ドイツの流出を防ぐため、「死の帯」と呼ばれた幅広い空き地が作られていた。東西統一により、荒れたまま放置されていた広大な敷地には、国の街づくりとして首相官邸、連邦議会、連邦参議院議会、ポツダム広場が建設された。民間の街づくりとしてはベンツ資本のタイムラーシティ、ソニー資本のソニーセンターが建設された。

〔ポツダム広場〕

左がタイムラーシティ

右がソニーセンター



ベルリンの壁跡地

〔壁博物館〕

博物館では、気球に乗って脱出した話の上映がしたり、脱出に失敗して射殺されたなどベルリンの壁にまつわる展示がされている。



西への脱出の様子を展示

## 6 テンプリン（ドイツ）【産業】・【環境】

### 無料バス導入の試み

#### 「ウッカーマルクの真珠」 テンプリン市の概要

テンプリン市はベルリンから北に70kmほど離れた人口約1万4千人の旧東ドイツの町である。市内に大小の湖がと森があるとともに、中心部は中世から残る城壁があり、自然景観、都市景観とも恵まれ、「ウッカーマルクの真珠」とも呼ばれる（ウッカーマルクは郡の名称）。また温泉治療の保養地とも知られ、年間20万人の観光客が訪れている。



【写真 中心市街地の広場】

#### 無料バス導入のきっかけ

旧東ドイツ時代にはバスはなく、市民の移動手段は、自転車、徒歩、少ないながらも車での移動が主であった。しかし1990年にベルリンの壁が崩壊してから、車の通行量が急激に増加した。また1992年に地元のバス事業者（ウッカーマルク交通）によりバスが導入されたが、市民にバス利用の習慣が無かったことから、あまり普及しなかった。

ドイツの観光地には、「休養地」とより格が上の「保養地」の2つの格付けがある。テンプリン市は、休養地になっているが、保養地を目指すためには公共交通の導入が必要となり、ウッカーマルク郡、テンプリン市交通局、テンプリン市環境局、ウッカーマルク交通の4者で、バスを導入すること及びその利用率をあげることを画策した。これが、無料バス導入のきっかけとなった。（テンプリン市は「保養地」のステータスが欲しいことと、バス事業者は「利用客」を増やしたいという各々の目的が一致。）

財源は、観光客からのクア・タックス（温泉税・宿泊税）とし、導入後バスの乗客数は17倍となり、効果は乗客数の増加にとどまらず、①市の知名度とイメージがアップ、②マスメディアの注目による観光客の増加、③それに伴うホテルの稼働率の上昇、④市内の店舗や飲食店の利用客の増加などの利益も間接的に得ることができたが、観光客の反発もあり、現在は有料化している。

## 7 ロンドン（イギリス） 【歴史】 ・ 【産業】

### 1) イギリスの都市政策

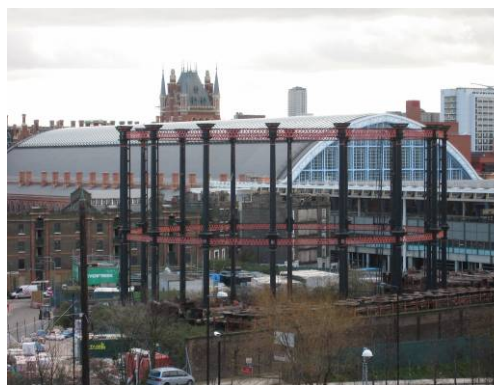
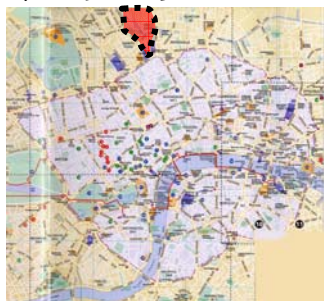
イギリスの都市政策においては、ヨーロッパ諸国と同様に1992年国連環境開発会議（地球サミット）で提唱されたサステイナブルな都市を形成するという考え方が、重要な柱として位置づけられている。

### 2) イギリスの都市計画制度

イギリスの都市計画は、地方公共団体が都市計画の将来目標を示すものとして策定する「開発計画」を実現するために、個々の開発行為すべてを許可によってコントロールする「計画許可制」が基本構造となっている。

地方公共団体は、開発者との交渉を通じて、「開発申請案にはなかった公共性の観点からプラスになるもの」（「公共貢献(プランニング・ゲイン)」）の獲得を目指す。（例：ハード面では、敷地内公共空間の確保、駐車場の整備、社会住宅の建設等。ソフト面では、雇用の確保、自治体の一般財源への寄付等）

キングスクロスセントラル地区(ロンドン中心部の北)（産業構造転換に伴う大規模土地利用転換地区）



（ガスタンクホルダーは高級マンションのファサードへ）（穀物倉庫の外観を残し、大学へ改築）

## 8-1 ジェノバ（イタリア）【歴史】・【環境】

### ■現況

- ・人口60万人、面積240km<sup>2</sup>
- ・港の両端から丘に向かって、海拔300mまでの傾斜地に市街地が広がっており、山の高いところまで住宅が密集している。

### ■交通

市内に3ルートのケーブルカーが運行、地下鉄・バスとの共通券で利用可

### ■文化

- ・オペラ劇場1、軽歌劇場8、映画館57、博物館・図書館30
- ・ヨーロッパ最大の水族館、ジェノヴァ国際見本市（国際公開展示会等、ジェノヴァ大学）

### ■ジェノヴァ港

- ・約2600年前に生まれた港で、地中海第一の貿易港、イタリアの港では最大の取引量。
- ・2003年の乗降客数は、3,350千人（内フェリー乗降客数2,734千人、クルーズ客616千人）



## 8-2 ジェノバ（イタリア）

## 【歴史】・【環境】

### ①地下鉄駅と港が近接

- ・地下鉄ディ・ネグロ駅から港まではおよそ500m。
- ・ジェノヴァ港は約2600年前に生まれた港で、現在では地中海第一のコンテナ交易の港であり、イタリアの港の中では最大の取引量を誇り、海岸沿いに16キロにわたって広がっている。

### ②旧市街地一帯の24時間車両進入禁止

- ・旧市街地は許可のない車両は24時間進入禁止となっているため、周囲には駐車場とレンタサイクルステーションが設置されている。違反すると罰金が課せられる。

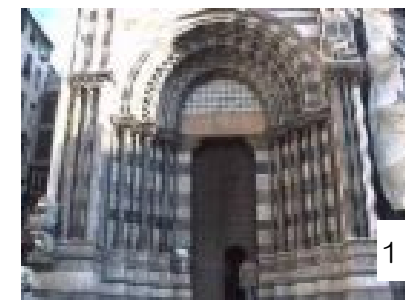


### ③旧港の再開発—観光港へ

- ・コロンブスの生誕500周年にも当たる1992年、荒れ果てていたポルト・アンティコ（旧港）ゾーンを中心としたウォーターフロントを、観光港として再整備した。造船所跡を再利用したヨーロッパ最大級の水族館、旧倉庫を改修した国際会議場の他、海洋博物館、ヨットハーバー、シネプレックス（映画館やレストランの複合施設）などが整備されている。

### ④世界遺産—貴族・邸宅群

- ・港街ジェノヴァはコロンブスの出身地でもあり、中世の強大な海運国として繁栄した歴史と文化を今に伝える。美術館通りともいえる現在のガリバルディ通り・バルビ通り、パラッツィ・ディ・ロッシと呼ばれたかつての貴族・富豪の邸宅群は2006年に世界遺産に登録。





## 8-3 ジェノバ（イタリア） 【歴史】

### 都心部再生事業～歴史的都心部の再生～

- 1950～60年代の町の最盛期に、住宅や商業施設が郊外部等へ転出した結果、**歴史的都心部**は、地理的・機能的中心を失い、**急速に衰退**。また、高速道路が港に沿って高架化され、**海と街並みが遮断**。
- 都心部に**歴史的都心部のエリア**を指定し、開発等を厳しく規制。その結果、**都心部全体の歴史的・美的・文化的価値が上昇**。また、郊外部にも開発抑制し、**不動産投資は、都心の老朽建造物を修復・再生する方向に向かった**。
- 1970年代を境に都心への再投資が起こり、歴史的都心部の再生が進んだ結果、**高品質で景観面に優れたコンパクトなまちづくりに成功**。



# 8-4 ジェノバ（イタリア）

# 【歴史】・【商業】

鉄道で分断された工業系用途の地区（約8.5ha）の土地利用変更を伴う、商業、業務、住宅などによる複合開発の事例



フィウマラ地区

図 フィウマラ地区の位置



写真 1907年当時の鉄道工場の様子



写真 商業モール（工場を再現した形になっている。）

## 9-1 シドニー（オーストラリア）【歴史】【産業】【景観】【環境】

### ■ みなとの活性化

- シドニーにおけるみなとの活性化では、次の8点が成功のキーファクター
- ① 恵まれたよい気候
- ② みなと周辺の整備
- ③ 歴史的建造物の活用
- ④ 交通網の充実と集約
- ⑤ クルーズ船の誘致
- ⑥ アトラクションの設置・集約
- ⑦ イベントの実施
- ⑧ 境界域での‘みなと’を感じられる賑わい空間づくり

- ・みなとは自然と都市が一体化している空間であるところが魅力を醸し出すが、その反面、季節性が強いことは否めない。
- ・この点をどのように克服するかにおいて、シドニーの組織では地元住民、国内旅行者、海外旅行者の意見をインタビュー調査によって取り入れ、各種の改善・新規の対策を行っていた。
- ・元来、旅行者は地元の真の姿に関心を抱くことから、地元の人々が訪れない所には外からの訪問者もいずれは来なくなるという信念を組織内・組織間で共有し、持続可能な観光の実現に向け、地元の人々が愛するような地域開発を行っている。
- ・地域を支援する人々、つまり、ファンづくりの活動は、国内にとどまらず、海外でも実施され、地元住民から他国の観光関連産業においても実施されている。
- ・この点で、国・州・市の各レベルの組織が連携をとり、一貫した目標と使命を持って、国民の理解を獲得しながら活動を展開しているといえる。
- ・また、SHFA（シドニー港湾局）という組織が、みなと（港湾空間）とまち（後背地の都市空間）、及びハード事業とソフト事業をつなぐ機能を果たしている。

## 9-2 シドニー（オーストラリア）【景観】・【環境】

### メトロ・ライト・レール、モノレール

すべてが低床式であるため、ホームと車両との段差はほとんどなく、車両への乗降は容易である。

- ・ セントラル駅での近距離、中長距離鉄道路線のほか、バスとの乗継ぎはLRTの乗り場がこれらの交通機関と近接しているためスムーズであり、LRTは広域的な公共交通ネットワークの一員として機能している。
- ・ 10～15分間隔で運行され、一部区間は24時間運行している。
- ・ モノレールは1988年の建国200年のときにオープンしたシドニー名物。シティ内を走っているモノレールは一周15分くらいで、一周すればシドニーのまちの雰囲気が大体つかめる。



### 世界三大美港

- ・ シドニー港はアメリカのサンフランシスコ港、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロ港と並び世界的に有名はハーバーである。30ha以上の広大な面積を誇る王立植物園にも面している。
- ・ 様々なクルーズのメニューがあるが、2時間程度の遊覧クルーズでは湾内の島を巡り、歴史あるデニソン岬を訪れたり、アボリジニ文化クルーズで、シドニー最初の住人となったガディガルの人々の生活を垣間見ることができる。



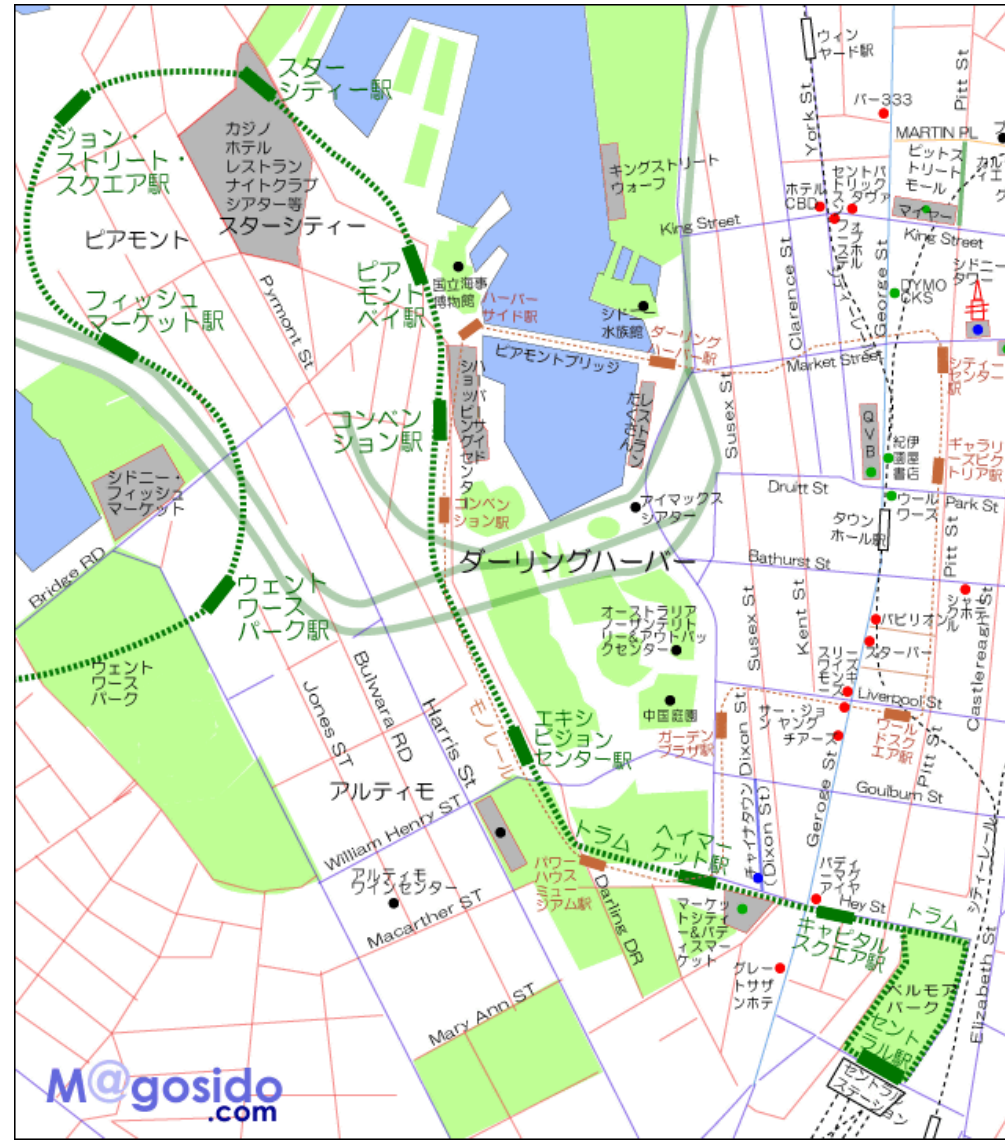
### シドニー・オペラハウス

写真(C) [http://jp.sydney.com/Sydney\\_Opera\\_House\\_p1776.aspx](http://jp.sydney.com/Sydney_Opera_House_p1776.aspx)

- ・ デンマークの建築家ヨーン・ウットソンがデザインし、1973年に完成した。2007年に世界遺産に登録され、年代的に最も新しいものとなった。オペラハウスではガイド付きのツアーがあり、舞台裏ツアーではステージ裏やホール内部、衣装室等を見ることができる。<sup>19</sup>

# 9-3 シドニー（オーストラリア）【環境】

トラム



チケットの名前	区間	料金区分	料金 AUS*	備考
シングル (Single)	1ゾーン	大人	3.2	片道
		子供*(1)	2	
リターン (Return)	1ゾーン	大人	4.6	往復
		子供	3.2	
シングル (Single)	2ゾーン	大人	4.2	片道
		子供	3.2	
リターン (Return)	2ゾーン	大人	5.7	往復
		子供	4.2	
ウィークリー (Weekly)	なし	大人	22	1週間有効
デイパス (Day Pass)	なし	大人	9	1日有効
		家族*(2)	22	

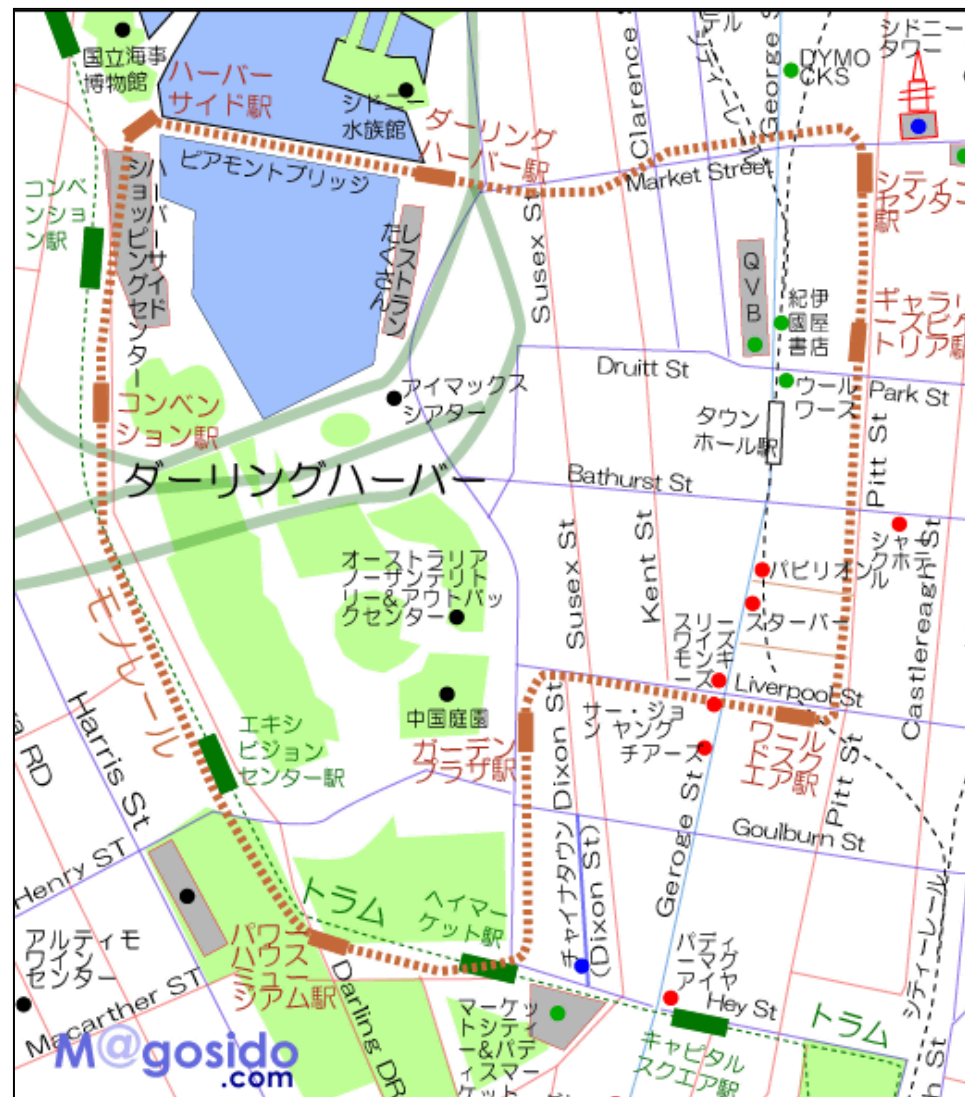
\* (1) 6-15歳。5歳以下は無料。  
 \* (2) 大人2名+子供2名 又は 大人1名+子供3名  
 Sydney by Light Rail

参考：1AUS=約78円（2009.9）

# 9-4 シドニー（オーストラリア）

## 【環境】

### モノレール



チケットの名前	区間	料金区分	料金 AU\$ *	備考
1 loop	なし	大人・子供*(1)	4.8	1周
メトロカード	なし	大人・子供	25	6回乗車有効
スーパーバウチャー	なし	大人・子供	9.5	1日無制限
		家族*(2)	23	
スーパーバウチャー・プラス ワンデイ	なし	大人・子供	15	モノレールとライトレール共通。
		家族	37.5	1日無制限
スーパーバウチャー・プラス スリーデイ	なし	大人・子供	30	モノレールとライトレール共通。
		家族	50	3日無制限

\* (1) 6-15歳。5歳以下は無料。  
 \*(2) 大人2名+子供2名 又は 大人1名+子供3名  
 Sydney by Monorail

参考：1AU\$=約78円（2009.9）

Magosido.com  
 写真) Wiki

## 9-5 シドニー（オーストラリア）

## 【景観】

### ハーバーブリッジ

○シドニー2大ランドマークの1つ

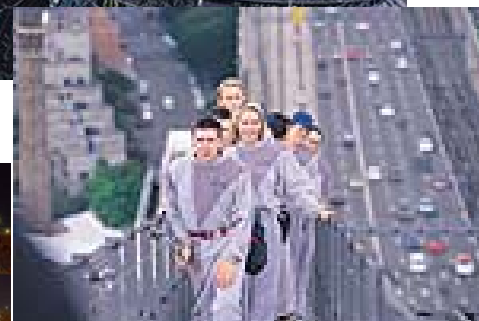
○8車線の車道（上下線合わせて）、2種類の鉄道、歩行者専用道

○屋上展望台（有料）、橋の建築・歴史の展示物・映画あり

○ブリッジクライムツアー（海拔134mの頂上まで）  
（命綱を装着してアーチに登るガイド付きツアー）



	ハーバーブリッジ	【参考】 女神大橋
長さ	1,149m	1,289m
最大支間長	503m	480m
幅	49m	31.1m
高さ	49m	65m
建設	1932年	2005年



# 10-1 バルセロナ（スペイン）

# 【歴史】・【産業】

## 22@ ポブレ・ノウ地区

### □事業期間

2000年～20年程度

### □施行範囲

ポブレ・ノウ地区198ha、115街区

### □概要

- ・衰退した工場地帯を**ビジネスオフィス地域**へと転換、同時に市街地の拡大
- ・市は都市の発展のため、IT系企業等が移転して来る**魅力ある地区**として計画

## 開発の特徴

- 1.脱クリアランス型再開発
- 2.開発の方向性を踏まえた容積率緩和
- 3.産業遺産の活用



■工場時代のファサード、煙突を残す



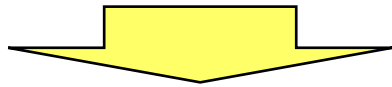
# 10-2 バルセロナ（スペイン）

# 【歴史】・【産業】

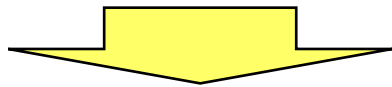
## 22@ ポブレ・ノウ地区

### 開発の流れ

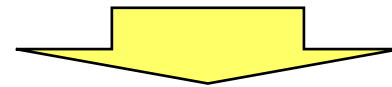
- 1 所有者同士による合意の上、開発計画を作成
  - ・22@BCNでは所有者同士での会議を企画
  - ・デベロッパーの関与による開発も存在
  - ・立ち退かない人に市が公営住宅を提供



- 2 土地所有者が開発計画を22@BCNに提出



- 3 22@BCNが内容を審査し、開発計画を承認
  - ・22@が提供土地（30%）の活用方針を決定

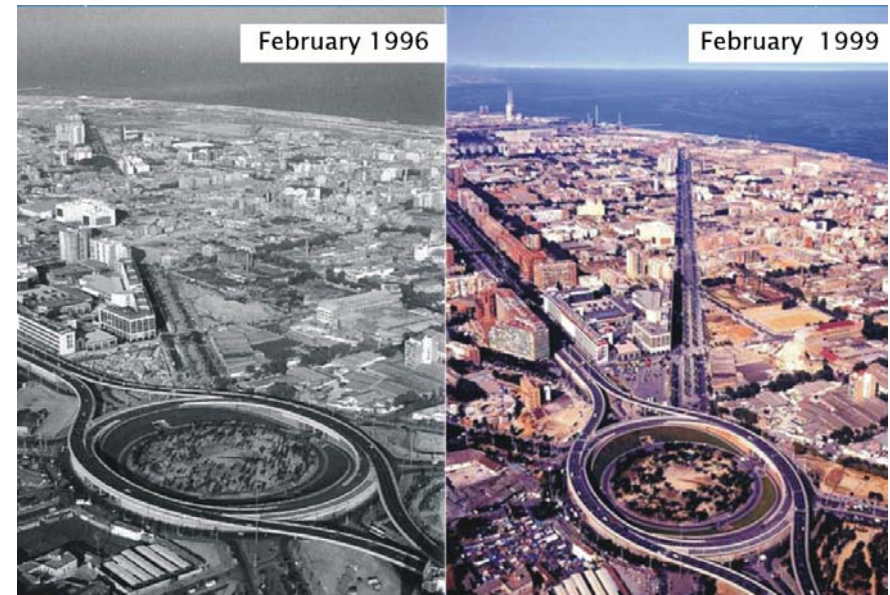


- 4 工事着手

開発は民間  
による実施

### 開発の誘導・計画

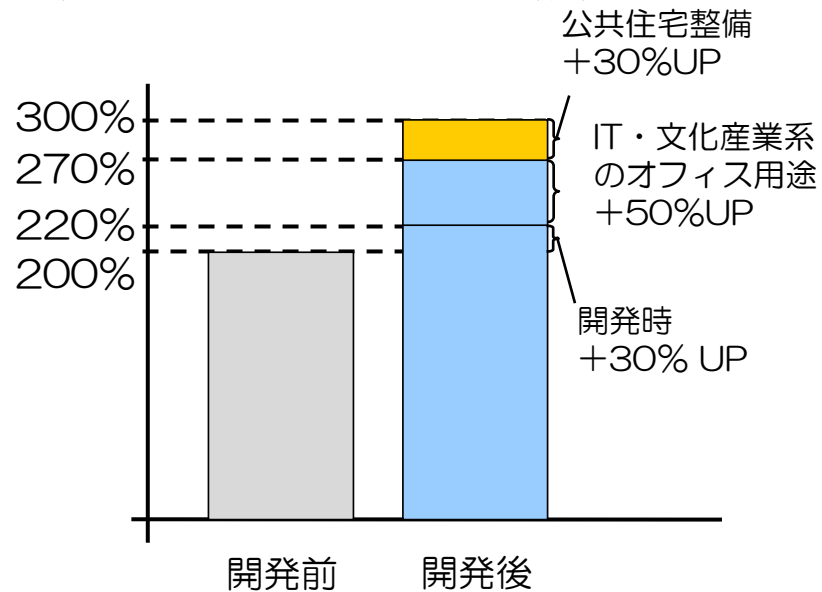
- a. 開発計画に応じた容積率の緩和
- b. 開発時における土地の市への提供
- c. 開発の方向性の共有化
- d. インフラ整備費の負担



# 10-3 バルセロナ（スペイン）【歴史】・【産業】

## 22@ ポブレ・ノウ地区

### a. 開発計画に応じた容積率緩和



### b. 土地の市への提供

- ・ 開発する土地所有者に対して土地の30%を市へ提供することを条件化（一種の公共減歩）
- ・ 地域の魅力向上のため3つの活用手法に利用
  - 1 新しく移転してくる会社にとって魅力となる施設（研究所、大学、託児所）の整備
  - 2 公共住宅の整備
  - 3 緑地・公園の整備

### c. インフラ整備費の負担

- ・ 市が行ったインフラ整備の60%に相当する額を負担しなければならない（受益者負担制度）

### d. 開発の方向性の共有

- ・ 2000年に6つの街区を対象に開発モデルを市が作成
- ・ 先行的に開発することで、市が地域の将来イメージを提示

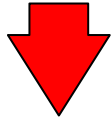


# 1 1 ミネアポリス（アメリカ）

## 【環境】

### ニコレットモール

- モータリゼーションの進展に伴う都心の渋滞
- 市街地の郊外化による都市の人口減少



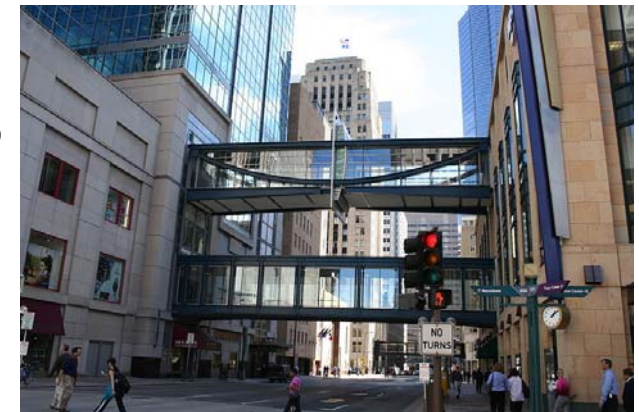
### 世界初のトランジットモール導入

- 幅員26m（1.3km）→車道幅員7.2m（2車線）、蛇行させて歩道確保
- 統一されたデザインのストリートファニチャー
- バスとタクシーのみ通行可（バス停を120m間隔で配置）
- 来訪者は公共駐車場に駐車し、パークアンドバスライドシステムを導入



### ～その他の取り組み～

- ・冬でもビル間を移動できるスカイウェイの導入（延長8km）
- ・都心居住を推進すべく2,000戸の住宅確保



# 12-1 上海（中国） 【産業】・【景観】等

## 浦東(プートン)地区（陸家嘴(りっかし)金融貿易区)の開発

鄧小平率いる中国政府は1990年4月、上海浦東の開発開放を世界に向けて宣言、平成4(1992)年の改革・開放の意志を示したいわゆる「南巡講和」が発表されたところより開発が加速、浦東新区を国際的な金融・貿易・経済センターとし、揚子江沿岸部の経済発展を牽引していこうとの戦略を立てる。

2004年、域内に、陸家嘴金融貿易区、張江ハイテクパーク、金橋輸出加工区と外高橋保税區など4つの国家レベル開発区を設置、それらの開発は、日本を含める全世界の注目を集め、各国から多くの企業が進出、外国と国内資本をより積極的、合理的かつ効率的に受入れ、外資導入に対しては、税制等種々の優遇措置が与えている。取り組みは、金融・証券・先物取引サービス、情報サービス、物流、国際貿易、コンベンション・観光と、リゾート事業などに及ぶ。



## 12-2 上海（中国） 【商業】

### 徐家匯エリアに点在する既存建物の活用（復元）：新天地

- 大型店舗型の商業再開発に対して、上海特有の住宅を路地型商業空間として再生した試み。
- ・地区再開発計画として地区全体のマスタープランを策定し、商業・業務・住宅以外に、人口池を囲む都市公園なども計画し、全体開発ビジョンを明確にした。
- ・段階開発戦略として、都市へのインパクトの大きい商業エリア「新天地」及び人工湖公園などを先行開発し、その成功効果を周辺地域に波及させ、開発全体のイメージ向上を図る。
- ・現在「新天地」は上海観光の名所となり、1つのブランドとして育っている。それに伴い、周辺地区の都市資産価値が上昇し、地区全体再開発に良い循環をもたらした。
- ・事業推進にあたり、香港のデベロッパーと、日本、米国、地元上海の設計チームが参画し、都市固有の歴史文化の継承、再生という新しい試みに国際的な視点とローカルの知恵がうまく融合したことも重要な成功要因といえる。



# 12-3 上海（中国）その他

## 河沿い倉庫街、工場跡地における創造産業の育成と歴史的資源活用の好循環を生み出す蘇州河沿いの試み

- ・ 加速する都市再開発が加速して消えゆく歴史的建造物が多数ある中で、蘇州河（租界時代に物流ルートとして栄えた）沿いの「南蘇州路倉庫」のコンバージョンを機に、国内外のアーティストが集まり「アート育成・発信」の場として知られるようになる。
- ・ そのような動きを受けて、2003年、地区内の20の工場及び倉庫群を上海市における「歴史文化風貌区」および優秀歴史建築保護条例に基づく「優秀歴史建築」に登録。→「蘇州河環境総合整備計画」も見直し。
- ・ 市政府では、「創造産業集積区」発展計画を策定し、上記地区や旧租界地区の路地や工場街等を「創造産業集積区」と位置づけ、創造産業の育成から得た利益を建物の再生費用に回すことで新しい創造の場の創出とストック活用との好循環を生み出す試みを行っている（一方で、観光地化で家賃があがり、当初から当該地区で活動してきたアーティストが払えなくなるという課題がでてきている）。



写真<http://haichaolu2008.blog71.fc2.com/?no=167>

## 世界博覧会の開催

- ・ 2010年5/1-10/31「より良い都市、より良い生活 ～都市多元文化の融合」をテーマとした上海世界博覧会を開催
- ・ 目標：200の国家と国際機関の出展、7000万人の見学者を誘致予定
- ・ 公式サイト<http://en.expo2010.cn/>



# 13 北京（中国） 【歴史】 ・ 【産業】

## 工場の再活用—大山子芸術区798芸術工廠

- ・ 北京郊外、北京空港へ向かう途中に、1950年代～70年代半ばに建設され、80年代から使われてなくなっていた重工業の国営工場跡地がある。
- ・ 2001年、その工場の一室をリノベーションし、アメリカ人がアートブック書店を開いたのをきっかけに、工場の天井の高い空間が受け、中国人の若い芸術家がここにスタジオを置いたり、次々とギャラリーやスタジオ、レストラン、ショップが増えていった。現在では、中国における現代アートの拠点として、当地区には、134箇所のギャラリーやショップがオープンしている（2007年現在）。
- ・ 2004年から「大山子芸術祭」を開催している。
- ・ 土地の使用権は工場側（七星集团公司）にあり、アーティスト達は賃料を払っている。



芸術区形成のきっかけとなった  
アートブック書店「Timezone 8」

## 世界遺産

- ・ 北京には、6つの文化遺産が登録されている。
- ・ 万里の長城、故宮博物院（紫禁城）、周口店の北京原人遺跡、頤和園（皇帝の庭園）、天壇公園（皇帝の廟壇）、明の十三陵（明・清王朝の皇帝墓群）
- ・ 市政府は、2002年に紫禁城周囲に残る「胡同（フートン＝13世紀から続く歴史的街区）」25地区、総面積10km<sup>2</sup>を「歴史文化保護区」として指定し、歴史的環境の「質」の保全と、生活環境の「質」の改善の両立を目指した再開発を行っている。



景観の自主協定を結んでいる  
「歴史文化保護区」の一つ南鑼鼓巷地区  
写真(C)「世界のSSD100 都市持続再生のツボ」東京大学c SUR-SSD研究会  
編著 彰国社

# 14 大連（中国） 【産業】

## 国際的ハブ港として東北経済振興への期待

- ・ 国務院は2003年に「東北地域など古い工業基地を振興する若干の戦略的意見」を公表し、「東北地区の有する港湾条件と優位性を十分に生かし、大連を東北アジア地域における重要な国際的ハブ港に作り上げる」ことを明確に打ち出した。
- ・ 第1に、大連は優れた地理的条件に恵まれていること。
- ・ 第2に、大連は比較的完備した港、空港、鉄道の輸送施設と集積の輸送システムを有する。
- ・ 第3に、大連市は良好な現代的サービス機能を有する。外国企業や外国の金融機関の海外長期駐在事務所が集中する都市の1つである。



「グレート大連」計画綱要（2020年までの大連市の総合発展計画）：  
「グレート大連」計画では①都市空間の拡大②最適化・拡大による総合的経済力の拡大③都市総合機能向上④よりよい都市環境の創出を掲げ、大連市を中国の重要な加工製造基地、国際海上運送センター、ビジネスセンター、観光センター、金融センター、情報センターとすることを目指す。特に、「産業強市、工業先行」を指導思想として、ハイテク産業を先導役とし、石油化学、設備製造、電子情報という3つの柱を支えとして、近代的なサービス業の高度に発展した「131」産業構造を形成していくとしている。なお、2020年のGDPを2000年の6倍増、一人あたりGDP 1.5万ドル以上とすることが目標として挙げられている。





## ソウル都市政策の3つの戦略

○ソウルのグローバル化と「**便利で、温かく、活気に溢れる**」という理想の都市を目指す上で、採るべき戦略は3つ。

- ①経営マインドの導入（公務員間の競争推奨、海外派遣、予算の健全化）
- ②人間中心志向（人間尺度、合理性と感性、弱者に対する公平性）
- ③持続可能な発展の重視（**環境第一**、開発第二の優先順位）

## ソウルにおける4つの都市事業

○3戦略の具現として、4つの事業が特に大きな成果を残したといえる。

- ①**高架高速の撤廃、清溪（チョンゲチョン）川の復元**
- ②バス路線網の再編など交通改革
- ③旧市街地の再生
- ④電子政府の推進

## 清溪川復元と3つの意義

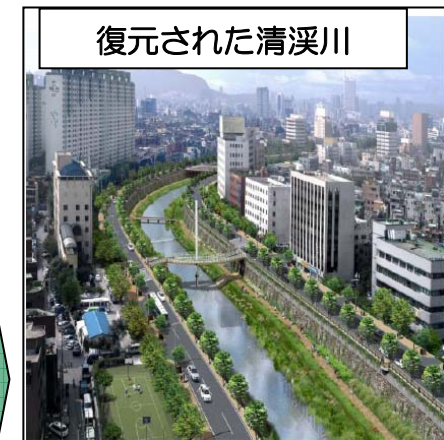
- ①環境：人間中心の**環境都市**として新しく生まれ変わらせるとともに、ソウルの**ブランド価値を高める**きっかけになる。
- ②歴史：失われた本来の姿を取り戻すこととなり、600年の**歴史を誇る都市**であることをアピール。**復元された清溪川は四大門内の王宮や遺跡などを結ぶ文化観光ベルトとなる。**
- ③経済：清溪川復元とあわせて**周辺地域の再開発**を行い、国際金融や文化産業、ファッション、観光産業などの**高付加価値産業を集積**する。

## ■清溪川復元事業の評価

- 復元された清溪川は**市民・観光客らの集う憩いの場**となり、夜ともなればさまざまなライトアップによりさらに魅力的になる。
- また、清溪川復元の経済的な意図には、スラム状態に陥っていた清溪川周辺から旧型の都市型産業をクリアランスし、これらの成長力が見込まれる**金融・保険・不動産（FIRE）**、文化産業、ファッション産業などの**高付加価値産業**で置き換えることが含まれていた。
- 復元で確保された都心部の良質な空間は、それまでほとんど手がつけられなかった**周辺地域の再開発を推進する強力な材料**となり、あちこちでビルが新設されるようになっている。
- まちがいなく清溪川復元プロジェクトは、ソウルを**北東アジアビジネスの中心地**と位置づける世界都市戦略の一環であった。



ライトアップされた清溪川



# 15-3 ソウル（韓国） 【歴史】 ・ 【産業】

## 世界遺産

- ・ 2009年6月に「朝鮮王陵」が韓国で8件目（ソウルでは3件目）の世界遺産に登録された。
- ・ 朝鮮時代の王陵40基は儒教・風水的な伝統をもとにした独特な景観と、500年以上続いた王朝の王陵全体が保存・管理されているなどの点が評価。



写真(C) <http://www.toyo-keizai.co.jp/news/photonews/2009/40.php>

## 国際的関門都市

- ・ 2005年にコンベンション開催数で世界第10位となった。
- ・ 2000年にコンベンション&エキシビジョンセンター、ショッピングモール、ホテル等からなる複合施設を建設。
- ・ 2014年完工を目途に、ソウル駅に建設される大規模の国際コンベンションセンターは、延べ面積5万㎡を超える広さに、最大7,500人を受容可能な大型会議室と26,500㎡規模の展示場が加えられ、江北エリアにおけるコンベンション産業を促進するきっかけになると期待されている。
- ・ 2008年にはメトロポリス国際研修センター・アジアセンターをソウルに誘致（※メトロポリス（世界大都市協会）は世界の大都市が国際協力と交流を目的として組織された国際機構）。



写真(C) [http://japanese.seoul.go.kr/gtk/news/news\\_view.php?idx=2357](http://japanese.seoul.go.kr/gtk/news/news_view.php?idx=2357)

# 16 釜山（韓国）その他

## ビジョン

国際人が再び訪れたい海洋・文化観光都市釜山

目標 釜山だけで楽しめる特色ある観光都市  
価値が高く、魅力ある観光都市  
観光資源が体系的に提供される観光都市

戦略 釜山らしさのある観光商品・観光ルートの開発  
海洋施設の積極的な活用を通じた海洋観光の活性化  
四季節観光地化及び再訪問の誘導  
知識基盤型の観光開発体系の構築  
生態観光地の開発及び環境親和的管理  
観光収容体制の先進化  
暮らしの質の向上のための福祉観光の実現  
観光マーケティング・広報機能の強化



## ②シンボル等による観光への取組み事例

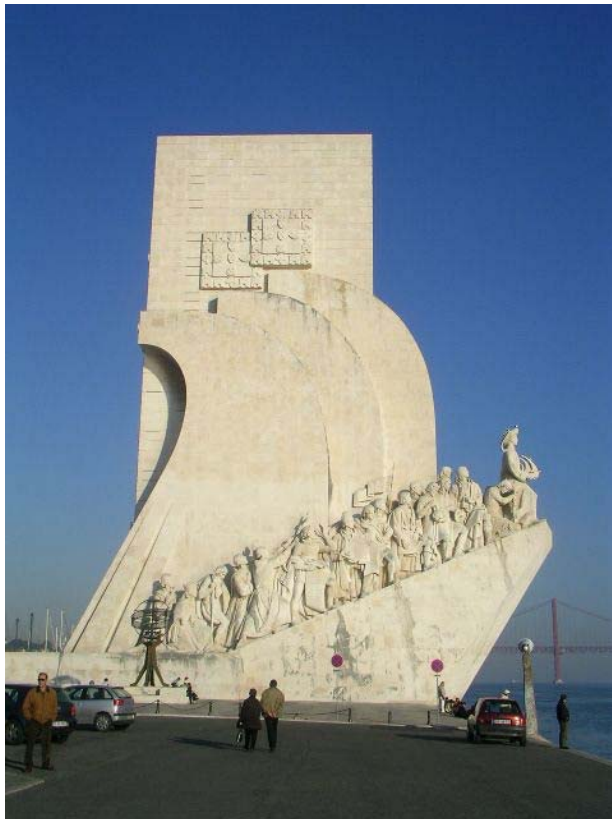
1. リスボン（ポルトガル）
2. シンガポール
3. サンフランシスコ（アメリカ）
4. 香港（中国）
5. 直島（香川県）

# 1 リスボン（ポルトガル）

## 発見のモニュメント

### リスボン市西部ベレン地区

1960年にエンリケ航海王子の500回忌を記念して建てられた。帆船をかたどっており、高さ52メートル。舳先にはエンリケ航海王子が立ち、大きな帆の両側に大航海時代を担った天文学者、地理学者、航海者、宣教師や、帰らぬ男のことを思い悲しみにくれる女性が表されている。



地球の歩き方

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』 37

## 2 シンガポール

### マーライオン

1964年にシンガポール政府観光局（STPB）のシンボルとして設計される。ライオンの頭と魚の体を持ち、波の上にたたずんでいるその姿は一躍シンガポールのシンボルとして世界に知れ渡るようになった。



記念物委員会の会員であり、ヴァン・クリーフ水族館の館長であった、フレイザー・ブルーナー氏により設計され、ライオンの頭は「マレー年報」に記されているように11世紀にサン・ニラ・ウタマ王子が Singapura を再発見した時に見かけたというライオンを表している。マーライオンの魚の尾は古代都市テマセック（ジャワ語で「海」を意味する）を象徴している。シンガポールは王子がこの地を「ライオン（singa）の都市（pura）」を意味する“Singapura（シンガプーラ）”と名付けるまではこの名で知られていました。また魚の尾は漁村としての質素なシンガポールの原点を表している。

出典：UNIQUELY Singapore

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

## 3-1 サンフランシスコ（アメリカ）

### ゴールデンゲートブリッジ

- サンフランシスコの象徴
- 海面から高さ66m  
（通れない船はないと言われる）
- クイーンエリザベス号も通過した
- その色が濃霧にもよく見えるため  
「インターナショナル・オレンジ」と呼ばれる



### ベイブリッジ

- 二重構造の吊り橋  
（サンフランシスコ方面が上の車道、オークランド方面が下の車道）
- 瀬戸大橋開通までは、世界一長い吊り橋（13.5 km）
- ゴールデンゲートブリッジ以上に美しいとも言われる





## 3-2 サンフランシスコ（アメリカ）

### コイトタワー

- リリーコイトの遺産（円柱状の塔）
- 展望台になっている



### トランスアメリカ・ピラミッド（サンフランシスコ）

- トランスアメリカ社の本社ビル
- 高さ256m
- 総床面積：49,300m<sup>2</sup>



## 4 香港（中国）

### 中国銀行タワー

- 香港を象徴する建物
- 香港のイメージを変える建物
- 旧社屋の老朽化・業務効率化のため建設
- 地上72階建、高さ300m超
- 展望台などはなく業務ビル



### 香港上海銀行・香港本店ビル（香港）

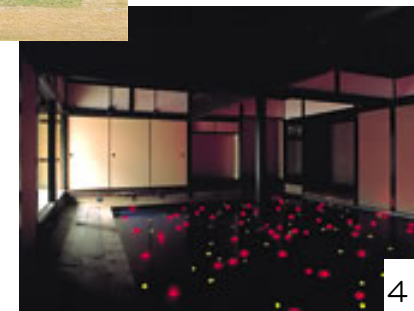
- 香港を象徴する建物の1つ
- 当時の最先端の技術を駆使
- 旧社屋の建替え
- 地上44階建、高さ178m
- 展望台などはなく業務ビル



※両ビルは隣接しており、どちらも風水師に指南を受け建設されたとされる

## 5 直島（香川県直島町）

- 島全体を現代美術の美術館に見立てている  
（フェリーでしか渡れない人口約3,400人の島）
- 地中美術館（安藤忠雄）、ベネッセハウス、家プロジェクト（古民家を改修した作品化した美術館）などが人気
- その他、関連するイベントを開催
  - ⇒ 2008年観光客 34万人（前年比20%増、5年間で6倍増）
  - ⇒ 全体の2割強が海外から



42

出典：直島町観光協会ほか